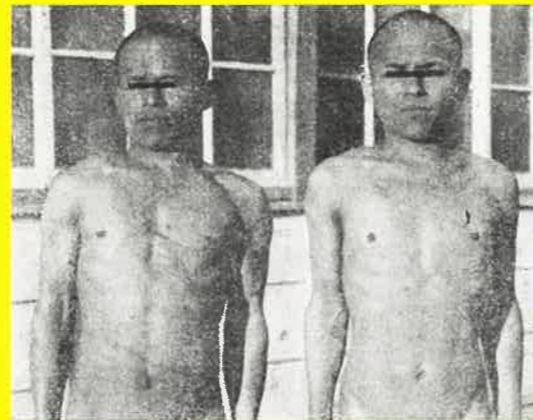


大正初期から第二次世界大戦後の混乱の時期までの、  
犯罪・非行事象の論考を心理学的視点から選定収録。

# 近代 犯罪心理学 文献選

全7巻 藤野京子 編・解説



クレス出版

## 近代犯罪心理学文献選 全7巻

藤野 京子 編・解説

第1巻	寺田精一 (1)	定価 14,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-931-9
第2巻	寺田精一 (2)	定価 13,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-932-6
第3巻	寺田精一 (3)	定価 13,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-933-3
第4巻	近藤貞次・石井俊瑞・高瀬安貞・小熊虎之助	定価 10,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-934-0
第5巻	玉生道経	定価 14,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-935-7
第6巻	吉益脩夫	定価 13,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-936-4
第7巻	谷貞信・植松正・樋口幸吉	定価 15,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-937-1

A5判/上製函入 平成28年4月末日刊行  
定価 92,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-938-8 (セット)

クレス出版好評既刊書

## 近代犯罪科学選集 全7巻

第1巻	変態心理と犯罪	中村 古峽 著	定価 10,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-434-5
第2巻	女性と犯罪	野添 敦義 著	定価 8,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-435-2
第3巻	殺人と性的犯罪	加藤寛二郎・荒木治義 著	定価 11,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-436-9
第4巻	演劇と犯罪	飯塚友一郎 著	定価 9,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-437-6
第5巻	犯罪者の心理	金古 準二 著	定価 12,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-438-3
第6巻	売淫・掏摸・賭博	喜多壮一郎・尾佐竹猛 著	定価 14,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-439-0
第7巻	暗殺・革命・動乱	喜多壮一郎 著	定価 10,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-440-6

揃定価 74,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-433-8 (セット)


## 元良勇次郎著作集 全14巻別巻2

監修：大山 正 編集主幹＝大泉 溥

第1巻	初期著作：『教育新論』・Exchange・留学前後の論稿	定価 9,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-732-2
第2巻	『精神物理学』・『生理的心理学講義』・欧米心理学の動向	定価 8,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-733-9
第3巻	『心理学』・『心理学十回講義』	定価 8,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-734-6
第4巻	『倫理学』・倫理問題教授法の調査	定価 10,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-735-3
第5巻	論稿 (1890～1900) 心理学・教育・社会 (1)	定価 10,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-736-0
第6巻	論稿 (1890～1900) 社会 (2)・哲学・倫理・宗教	定価 8,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-737-7
第7巻	『修身学』・『倫理講話』・『倫理及宗教』	定価 10,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-738-4
第8巻	中島泰蔵共訳 『ヴント氏心理学概論』訂正再版	定価 8,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-739-1
第9巻	論稿 (1900～1905) 心理学・教育・社会・哲学	定価 12,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-740-7
第10巻	『心理学綱要』・心理学講義・東洋的自我	定価 11,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-741-4
第11巻	論稿 (1906～1912) 心理学・注意の心理・教育	定価 9,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-742-1
第12巻	論稿 (1906～1912) 社会・哲学・倫理・宗教	定価 8,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-743-8
第13巻	論文集	予価 8,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-744-5
第14巻	『心理学概論』(遺稿)	予価 14,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-745-2
別巻1	元良勇次郎関係資料	定価 12,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-746-9
別巻2	著作集の解説・佐久間鼎の講義ノート CD-ROM	予価 17,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-747-6

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋  
☎(03)3808-1821 ㊟(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

●書店名

 株式会社クレス出版

藤野京子

犯罪・非行事象の論考は多分野からなされているが、今回の収録に当たっては、心理学的視点を踏まえた著述を選定した。しかも、犯罪心理学の研究諸領域のうち、犯罪捜査や刑事裁判にかかわる心理学よりも、犯罪者や非行少年の精神病理に限定されない心理の実態及び処遇にかかわる資料を中心に編纂した。この視点を踏まえたこの領域の研究であれば、生粋の心理学者に限定されることはないと考え、収録にあたって、心理学的視点を踏まえた医学者や法学者の著作も含めることにした。

我が国において、実験を含む心理学の専門的教育は元良勇次郎によって始まったと言つてよいであろうが、寺田精一(一八八四—一九二二)はその元良の弟子の一人である。恩師元良から「犯罪心理学に関する研究は未開拓の方面であるから、今後の研究問題にしては如何です」と言われて、この方面への研究に着手したと寺田は述べている。現実場面との関わりにおいて実証的なスタンスをとるよう恩師元良は奨励したとされているが、寺田の著作にはその薫陶を受けたことが如実に見て取れる。グライツ大学に犯罪学研究所を創設したグロスの「犯罪心理学」の邦訳を手掛けてもいる寺田だが、当時の欧米での知見をよく収集している。加えて、この分野は法学との近接領域であることから、法学部刑法研究室にも出入りをしてその研究動向も視野に入れた上で、我が国で犯罪や犯罪者の諸現象について心理学の知見を展開している。すなわち、寺田は日本で初めて犯罪心理学の分野を開拓したと位置付けられる人物であり、一九一三(大正二)年に成立した日本犯罪学会も寺田らの発議によるとされている。

今回、この寺田を筆頭に、第二次世界大戦後の混乱の時期までの著述を中心に収録した。実際の問題解決のために心理学的知見が生かせるのではないかと戦前多くの官庁で心理学者への期待が高まったが、犯罪・非行の分野でも同じ現象が生じた。たとえば、一九三〇(昭和五)年に豊多摩刑務所において吉益脩夫を中心とした心理学的視点を含めた累犯研究が行われ、また、一九三三(昭和八)年の行刑累進処遇令が心理学の必要性を定めるようになって、心理学者が司法省で嘱託等として関与するようになった。当時どのような思いでこの分野にかかわったかをみるこ

とができる資料である。  
一九〇八(明治四一)年から一〇〇年近く続いた監獄法から二〇〇六(平成一八)年に刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律に代わつて、刑務所などの諸施設での心理学的働きかけの立ち位置も変化しているが、第二次世界大戦以前に、どのようなことが考えられていたかを省みる上でも貴重な資料であろう。  
(早稲田大学文学学術院教授)

近代犯罪心理学文献選 全7巻

第1巻 寺田精一(1)

寺田 精一 囚人の心理(巖松堂書店、大正2年)

第2巻 寺田精一(2)

寺田 精一 ロンブローゾ犯罪人論(巖松堂書店、大正6年)  
寺田 精一 犯罪心理講義(日本変態心理学会、大正10年)

第3巻 寺田精一(3)

寺田 精一 犯罪心理学(岩波書店、大正15年)

第4巻 近藤貞次・石井俊瑞・高瀬安貞・小熊虎之助

近藤 貞次 行刑に於ける社会心理学的問題(上下)(刑政、昭和5—6年)  
近藤 貞次 少年犯罪者の危険性の規定条件…経済的、社会心理的、教育的考察(二—三)(刑政、昭和11年)

石井 俊瑞 犯罪心理学(岩波講座教育科学10冊、岩波書店、昭和7年)

石井 俊瑞 犯罪心理(現代心理学第6巻、河出書房、昭和18年)

高瀬 安貞 犯罪者の社会的予後の問題(一—三)(刑政、昭和12年)

高瀬 安貞 犯罪者の教育(弘文堂書房、昭和15年)

小熊虎之助 犯罪心理(1)総論(心理学講座第7巻、中山書店、昭和29年)

第5巻 玉生道経

玉生 道経 行刑考査法提要(第4、5章を除く、目黒書店、昭和19年)  
玉生 道経 犯罪者の性格と社会教育(童友書房、昭和23年)

第6巻 吉益 脩夫

吉益 脩夫 犯罪人—性格と運命—(東洋書館、昭和23年)  
吉益 脩夫 犯罪学概論(有斐閣、昭和33年)

第7巻 谷貞信・植松正・樋口幸吉

谷 貞信 矯正教育(童友書房、昭和23年)  
植松 正 犯行の心理(立花書房、昭和25年)  
植松 正 犯罪少年の心理と教育(特殊児童の心理、金子書房、昭和23年)  
樋口 幸吉 戦後における非行少年の精神医学的研究(法務研修所、昭和28年)

生物学的観察 女性を廣義に考察して、生物學的方面より研究するに、下等

動物に於ては、女性がその智力・體力・外貌竝に命數等何れも男性に勝つて居るが、少しく高等な動物に於てはこれに反して居る。これ即ち高等な動物は、男性が女性を所有する爲めに、激しき競争をなし得るやうに發達したのであつて、又一にはその子孫を養ふべき任務が女性に與へられて居るが故に、女性の心身の性質には比較的變化を與へなかつたのである。而して野蠻人の婦人は、一般に感覺鈍く、殘酷にして復讐心に富んで居るが、普通の民族の婦人に於ても觸覺・嗅覺・聽覺・視覺等何れも鈍く、道德性竝に苦痛の感が鈍い。けれどもこれが母となるに及んでは、直に溫和・他愛・先見等の作用が發達し、かくて上の缺點を補ひ、加ふるに哀憐の念を増し、殘忍性を去るに至るものである。且婦人には、解剖的・生理的・機能的竝に感覺的方面は、其變化性が男子よりも甚だ

五 拘禁反應とその教育法

I 拘禁反應 受刑者の心理と犯罪者の心理とは全部同じであるとはいへない。拘禁による生活條件の最小限度の制限、人格的自由の剝奪、絶對の隔離と隸屬、人格の社會的没落、これらは凡て初犯者には勿論のこと累犯者に於てさへ何等かの精神的轉覆の條件となる。従つて犯罪者は刑務所に收容せられると一定の期間拘禁による精神的反應を現はすのである。Klingはこの反應は凡ての受刑者に共通であつて、ヒステリー化されるのであるといつてゐる。受刑者は或程度その人格が狭められ且制限せられる。これはいかに人道的な行刑と雖も避くべからざるものであるが、かゝる受刑者はその人格的自我の中核を全然喪失してしまはないために何等かの仕方で自己を顯示しようとするからである。併しKlingも斷つてゐるやうに、ヒステリー化するといふことは精神病學的に嚴密な意味ではなく「反應性の亢進」とい意味である。従つて各受刑者は彼の性格的に條件付けられた仕方で行刑所に反應する。興奮性のものは一層興奮し易くなり、發揚性のものは尙一層早く且強い情

第四章 身上調査法施行のための基礎知識

一體型

(一) 體型  
I 瘦身體型或ひは細長型、無力型—瘦せた細長い型、體重や身體の厚さは平均より少い。上肢細く狭肩、胸部扁平、胸圍小、筋肉薄弱、脂肪に乏しいことを特色とし、之が子供の時から老年迄續き、榮養をとつても格別の變化もなく、筋肉作業も筋肉の發達に本質的影響を齎らさぬ。皺だらけの貧血した皮膚、毛髪は頭髪、眉、生毛などの第一次的なものは過度に發生し、禿頭は少い。鬚髯、髭幹毛、恥毛の様な第二次的なものは餘り發生しない。顔の骨組は概して纖細で、色は青黄色、形は短卵型が多い。

2 關士型或ひは筋肉型—前の型と反對に骨格、筋肉、皮膚が非常に發達してゐる。身長大又は中、反つた幅の廣い肩、がつしりとした胸を特徴とし、又胸から腹へかけては比較的下の方ほど細くなつてゐるが、腰から腿は極めて發達してゐる。廣い肩幅もよく均齊を保つてゐる。全體として平均より大きい、寸法の割合に小さく見える。小さい頭より發達し、青年期の頃から既にこの形態が現はれる。その後明瞭

九 家庭生活の反省

一般家庭では、前述の如き少年処遇方針に衝突するような条件は無いが、反省してみることがある。それは混乱せる困状に於いては、殊更必要であつて、早く一般家庭の内部が整頓されなければならぬ。

子供の精神及び身体の發達を、阻害するようなことは無いが、意氣を阻害させるような取扱いは無いが、子供があまりに放縱怠惰で困ることは無いが、子供に懦弱意氣地なしの傾向は無いが、偏屈剛情で困る程のことは無いが、あまりに短氣で怒り易く、怒りにまかせて亂暴して手がつけられないというようなことは無いが。